

議員と語ろう会 実施報告書

日時	令和7年11月29日(土) 13:30~15:00
会場	坪江公民館
団体名(参加人数)	1人
参加議員	北島(リーダー)、島田、南、関山
【意見交換の内容・所感など】 <ul style="list-style-type: none">・あわらし議会議員の定数削減について、合併からの定数の変遷と今後の定数の在り方について、議員毎の考えを述べた。また、政務活動費の支給を予定している旨を述べ、意見を求めた。・あわらし議会での在るべき議員定数や政務活動費支給についての意見はなかったが、議員になった場合には、自分の考えを表明できる人でないと駄目だという意見があった。・9月補正予算で予算化した新型コロナウイルス予防接種委託料について、議会が当該予算を認めた理由を求められたので、各議員が回答した。・新型コロナウイルス予防接種について、令和7年度から国の公費負担が原則廃止となり、原則的に接種者の自己負担と自治体独自の公費負担となったものの、国において定期接種として位置づけし制度化しているので、65歳以上の高齢者や持病があり、コロナ感染により健康が害されるとワクチン接種を望む市民がいることも現実である。ワクチン接種を希望する市民のために接種機会の窓口を閉ざすこと適切ではなく、予算として認めたものである。ただし、予算措置をしたからといっても、接種を受ける受けないは、本人の自由意思であり、市の執行機関や議会が強制するものではないことを説明した。・毒とも言えるコロナワクチン接種を予算化することは、市民の健康や生命を危険にさらすことになり、特に子ども真ん中社会と言われている状況下で、任意接種でも子どもが接種し健康被害のリスクにさらされることは適切ではないという意見であった。・国の制度を受け、執行機関が予算案として議会に出された新型コロナウイルス予防接種の予算を否決するには、接種を希望する市民も納得する確固たる情報(証拠)が必要であり、現状では困難であるとの回答をした。・ワクチン接種による新型コロナウイルス対応よりも、免疫力アップの施策を実施すべきだとの意見があり、コロナに限らず市民の健康保持に免疫力アップの視点は重要だと感じた。	

令和7年11月29日

あわらし議会議長 様

作成者 島田俊哉